

“無関心”を、“関心”に——。

Yの字作戦 活動報告 2015-2017

「裸足で歩ける砂浜」を目指して。

NPO法人 改革プロジェクト

発行 / NPO法人改革プロジェクト 代表理事 / 立花祐平 〒811-4146 福岡県宗像市赤間3-5-1-204
☎ 090-2398-7390 ✉ kaikakuprj@gmail.com 🌐 <https://www.kaikaku-prj.com>
FB / <https://www.facebook.com/npo.kaikaku/>

web



※「Yの字作戦プロジェクト」及び本誌は、「TOTO水環境基金」の助成を受け活動・発行しております。



無関心に関心に。

海辺や川辺の現状について 知り、明日への行動に 結びつけてもらいたい。

私が最初に環境に目を向けたのは2010年に遡ります。高校を卒業し、東京の大学を出て大阪で就職し、7年ぶりに地元に戻って見た海の風景が今でも忘れられません。

かつて裸足で走り回っていた地元の海岸を覆っていたのは細かな無数の発泡スチロールやプラスチック破片の数々。裸足で駆け抜けることができなくなっていました。あまりにも様変わりしてしまった海岸を見て大きな喪失感を覚えました。「海の恵みを受けて育ったひとりの人間として自分で何かこの現状を変えることはできないか」そう思い立ち、自分なりに環境や地域のことについて調べ、その翌週には友人を誘い3人で海岸の漂着物を拾う活動を始めました。これが私が環境活動に取り組むようになったはじめの一歩でした。

最初の一歩を踏み出してから7年の月日が経過しました。まだまだ海岸に流れ着く漂着物は一向に減りません。これらの問題の根っこにあるのは、無関心です。「誰かがやってくれるからいい」「自分には関係ない」そんなことを言う人もいますが、これは大きな間違いです。私たちは絶えず地球の恵み(ギブ)を受けて生活しています。それが当たり前で思いがちですが、そうではありません。受け取る側のギブが過多になってしまった現代、地球は様々な面でその影響を受け続けています。

海岸に漂着する無限にも思えるごみの数々

もそのひとつ。人間関係と同じように、地球に対してもギブ&テイクすることは、私たち人類が地球と仲良く暮らしていくためには必要なことです。

私たちの活動もその根底にあるのは、ごみ拾いという手段を通じ地球に恩返しできる人を増やすことにあります。

この冊子を作ったのも、私たちの活動や環境の現状を知ることによって地球へテイクする人をひとりでも多く増やしたいという思いから。特別なことをする必要はありません。ひとりひとりが出来る範囲内でやれることをやる。それだけでいいのです。この冊子を開いて環境問題の現状を知ること手段のひとつです。

今からでも決して遅くはありません。ひとりの一歩が地球の環境を救う大きな一歩となるはずですよ。



NPO法人改革プロジェクト
代表理事 立花 祐平



CONTENTS

海辺の現状と課題	P04-05
島の現状と課題	P06-07
インタビュー 島に関わる人	P08-09
ごみをもたらす影響	P10
明日からできる環境への取り組み	P11
Yの字作戦 概要	P12-15
プロジェクトメンバー紹介	
Q&Aインタビュー	
TOTO水環境基金とは?	

NPO法人改革プロジェクト

2010年福岡県宗像市で海岸の環境保全を目的として団体を設立。
海岸や街中での清掃活動に取り組み、これまで実施した回数は100回を超える。
2013年より地域の安全づくりを目的とした「パトラン」を全国で初めて実施する。



プラスチックごみがおこす環境への悪影響 池浦 遥ちゃん(13歳) 中学1年生

私は、小さい頃から岡垣町や宗像市、福津市など、いろいろな海でビーチクリーンをやってきました。海には色々な種類のゴミが落ちています。その中で今ですと気にしているゴミがあります。それは、アイスクリームの下に付いているコインみたいな形をした黒いものです。宗像の海岸に沢山落ちていました。それが何に使われている物なのか調べてみました。

まず、このゴミが漁具のひとつではないかと思い、津屋崎漁港に行き、漁師さんに聞いてみました。すると、あなご漁のときに使う『あなごかご』という漁具のフタであることがわかりました。宗像の海岸に落ちていて、理

由として、『津屋崎漁港はあなごの屋敷漁獲量が高いこと』『潮の流れで宗像の海岸に多く漂着していること』もわかりました。

次に、宗像市役所に行きました。宗像では、プラスチックの灯油缶が多く落ちていて、そのほか、中国文がハングル・中国文字で印字されているため、韓国・中国から漂着してきたのではないかと、いうこともわかりました。

以上のことを調べてみて、私はプラスチックごみに限らず、ごみは環境にも悪影響を与えていることを実感しました。また、わざとではないにしても、本人も気づかないうちにごみ

を出している人がいることを知り、全員の協力が必要だと感じました。また、ごみが出ても自然に帰るような技術もある、という思いがあります。自分たちも工夫して、自然に帰るような努力と工夫を重ねたいです。



あなごかごのフタ



漁師さんに突撃取材



細かい発泡スチロールを素手ですくう遥ちゃん

誤飲・誤食による生物への影響(絵①)

生物はプラスチックごみを餌と間違えて飲み込んでしまう。誤飲・誤食を繰り返すと、ごみは消化出来ずに消化器官に溜まり続け、本来食べるべき餌が食べられなくなり死んでしまう場合がある。



①

生物に漁具やロープが絡みつき外れない(絵②)

餌を食べようとして近づき、ごみが体の一部に引っかかってしまうことがある。ごみの多くがプラスチックのため、丈夫で簡単には外れない。人間の手を使っても取れないことも。



②

海浜植物の生育を阻害する(絵③)

海岸に蓄積したごみによって太陽の光が遮られてしまう。



③

海底へドロ化(絵④)

ポリ袋やレジ袋などのシート状のプラスチックが海底に沈むと、そのごみの下には有機物が分解されにくくなり、ドロ化してしまう。



④

ゴーストフィッシング(絵⑤)

漁具や漁網が海底に沈み、生物がその中に入り込んでしまうと、出ることが出来なくなり死んでしまう。そのごみが回収されるまで延々と繰り返されるため、国際的に問題になっている。



⑤

ごみのないまちへ 池浦 茜ちゃん(11歳) 小学5年生

私は、小さい頃から海が大好きで、4歳頃から姉と清掃活動に参加してきました。改革プロジェクトでは、8月に大島でビーチクリーンをしたときに大きなドラム缶が落ちていたので、ドラム缶について調べてみました。

まず、津屋崎漁港に行って漁師さんに話を聞くと、「ドラム缶は漁業では使わないけど、外国から流れてくるのかもしれないね」と言われました。

次に、宗像市役所に話を聞きに行きました。環境課の方の話では、「海にドラム缶などを捨てにくる人は今のところ確認できていない。ドラム缶にはハングルや中国語で書かれた物が多く、外国の船から落ちて流れ着

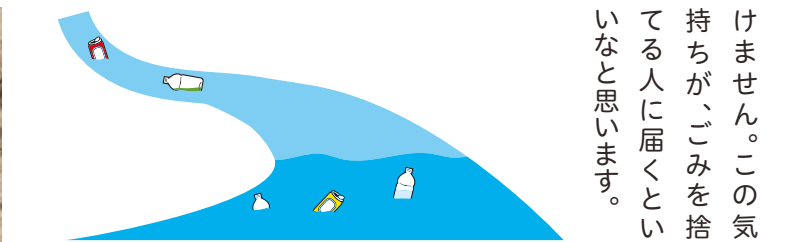
いたものだろう」と教えてもらいました。そして、「もしまだ入っていたら見ただけではなく、環境にも悪くなるね」と言われました。

台風の日や風が強い日、しけた日などにごみはたくさん出ます。ごみが出るのは外国からだけではなく、日本でもごみはたくさん出ます。山に登った人などがごみをそのまま山に捨てると、川をつたって海へ行きつづけます。また、ポイ捨てをしても雨風によって海に流れ着いたりもします。

だから私たちは普段から海だけではなく、山や川、まちでも気をつけていかなければい



炎天下の中、膝をつき細かいごみを拾う茜ちゃん



けません。この気持ちで、ごみを捨てる人に届くといいなと思います。



市役所に行き資料を見つめる



海岸に流れ着いたドラム缶

ごみはどこから?

海岸のごみは、潮の流れの影響により外国から漂着したものと、日本でポイ捨てされたものが多い。また、日本で捨てられる多くのごみは、まちや山でのポイ捨てや、外に置いていたごみが雨風により川に流され海に流れ着くことが多い。



川のごみは海に流れ着く

どんなごみが多いの?

生活から出るごみも多いが、工業や農業、漁業から出るごみも増えている。家庭ごみ・・・アイスのごみ、ペットボトルなど
漁業のごみ・・・ブイ、ロープなど
農業・工業のごみ・・・肥料袋、箱など

私たちにできること

エコバックを使ったり、いらぬものを買わない。外出先で出たごみは持ち帰る。そうした小さなことから、気づき実行していくことでごみは少しずつ減っていく。



バラバラの発泡スチロールが散乱

福岡県 海辺調査レポート

島と海岸の現状

大島



ふたつある宗像の有人島の内のひとつ。世界遺産の認定を受けて観光客が増加。海流の影響を受けて様々な漂着物が流れ着く。

地島



もうひとつの宗像の有人島。大島と比べると清掃活動に取り組む人も少ないため、場所によってはごみが堆積しているところも見受けられる。

玄海島



福岡市西区の島。ペットボトルや漁具などのプラスチック系のごみが多く漂着しており、景観を損なう場所も見受けられた。

勝浦浜

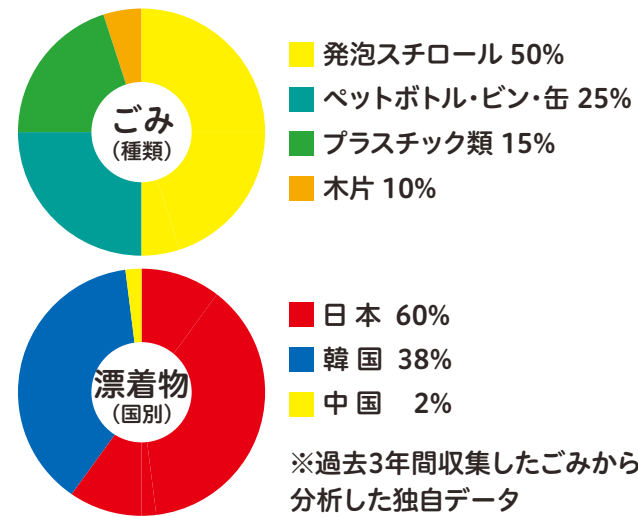


大量の魚(ふぐ)の死骸が浜辺に打ち上げられていた。その数は500匹を超えるほど。その影響で周囲には悪臭が漂っていた。

深浜海岸



年6回以上清掃活動を実施するメインの海岸。発泡スチロールの小さな屑が浜辺を覆うように堆積しており、海岸の環境に悪影響を及ぼしている。



宗像市では「グリーンネット」と呼ばれる網目のごみ袋を無料で市からもらうことができます。砂や水を通すため堆積せずとても便利なアイテム。

芦屋海岸



宗像や岡垣と比べると漂着物が非常に少なくきれいに保たれている。

脇田海岸



芦屋と同じく極端に漂着物が堆積している場所などは少ない。海岸周辺も人が歩きやすいよう整備されている場所も多い。



海岸調査レポートとして、福岡県内の各地の海岸の状況をまとめました。場所によって漂着物の量は違いますが、どこの海岸でも漁具のプラスチック製のごみが多く目立っていました。また福岡市～岡垣町までの海岸では韓国・中国製のペットボトルが多く見受けられました。県内の3つの島の調査では、全く手付かずの場所も多いため、これらの漂着物を收拾していくには、島民以外の協力も必要であると感じます。

調査:立花

ごみもたらす影響

海岸には多種多様なものが流れ着きます。地域によって差はあると思いますが、私たちがこれまでの活動で最も多く見かけたものベスト3は「発泡スチロール」「ペットボトル」「漁具」です。中でも発泡スチロールは、1メートルほどある大きなものもや小石くらいの大きさまで分解されたものなど様々。私たちが活動の拠点とする宗像の深浜海岸には波によって砕かれたスチロールの破片が雪のように砂浜を覆い尽くしています。この発泡スチロールは一体どこから流れ着くものなのでしょうか？

発泡スチロールとは何なのか？

身 近なところに溢れている発泡スチロールですが、この起源は1950年のドイツまで遡ります。日本で実用化されるようになったのは1959年からと言われています。石油から作られたプラスチックの一種で、ポリスチレンを小さな粒状にした原料ビーズを約50倍に発泡させてつくられるのです。軽量で手軽に使えるため日本でも多く普及しており、用途としては魚箱が50%をしめるとも言われ

ています。

その反面、強度には弱く人の手で簡単に分解させることができるため小さなごみとなりやすく、海中や海岸に散らばると回収が非常に難しくなります。魚が鳥がエサと間違えて食べてしまうこともしばしば。

海岸清掃をしている中で最も回収が難しいのがスチロールのくずで、今の私たちの活動だけでは全てを回収するのはおそらく不可能です。

一体どこから流れ着くのか？

海 岸に漂着する発泡スチロールの多くは、船の防舷材や海洋資材である発泡スチロール製フロートとして使われていたものです。これらが台風の影響などにより漂流しやがて海岸に漂着しています。中にはハングル文字が書いてある韓国製のものなども見かけます。

どうすれば防げるのか？

海 岸に漂着する発泡スチロールは、ほぼ海洋資材として使われていることから海洋業者が適切に管理することが予防への一歩であると考えられます。最近ではミールワームというスチロールを食べる幼虫が発

見されたり、科学技術の進歩で新たな解決法が出ることにも期待できますが、まずは使う人が責任を持って処理することが大切であることは言うまでもありません。



▲風化によりバラバラになった発泡スチロール



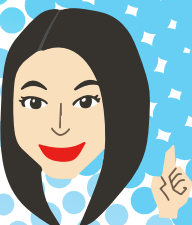
▲ハングル文字で書かれた大型発泡スチロール



▲宗像の海岸に流れ着く発泡スチロールの数々

- ※1 防舷材・・・船が接岸する際の衝撃を和らげる「クッション」の役割を果たす。
- ※2 発泡スチロール製フロート・・・いかだを浮かせる際に使われる。

地球環境のためにできること



家でできること

1 電気を大切に使う

誰もいない部屋の電気や、ついていないテレビなどの主電源を切るだけでも、地球環境を守るための立派な行動。家の中を点検してみましょう。また、冷暖房の設定温度に気を配ってみる(夏の冷房は28度、冬の暖房は20度)冷蔵庫に食品を詰め込みすぎない、電球(白熱灯)から電球形蛍光灯に、電池を充電式電池(二次使用できるもの)に変えてみる、地球環境に優しい発電方法で作られているグリーン電力に興味を持ってみるなど、ちょっとしたことがとても大切です。

職場でできること

1 裏紙は便利!

重要書類はダメですが、不要になった書類や資料の裏をメモ用紙などに使ってみると便利です。

外出時にできること

1 マイ○○を持とう!

マイ水筒やマイ箸、マイバック(エコバック)などを持てば自分が排出するごみをかなり減らせます。

3 自動車が出かける時は・・・

急停車、急発進、駐停車中のアイドリングを、できるだけやめてみましょう。

その他

▶ 買い物の時

- ・詰め替え商品を買う
- ・不要なレジ袋や過剰包装は断る
ゴミ削減の第一歩ですね。
- ・自分が住む地域で作られた食材を選ぶ
輸送などで排出される二酸化炭素が削減できます。
- ・リサイクル商品を購入する
古紙やペットボトルなどを再利用して作られたリサイクル商品を積極的に購入してみましょう。

▶ 壊れたものやいらぬもの「捨てない」

- ・修理できるものは修理してものを大事に使う
自分が気に入ったからこそ購入したはず。大事に使いましょう。
- ・リサイクルショップを利用
着なくなった服やアクセサリなどは、リサイクルショップなどを利用してきましょう。

2 水も大切に使う

手を洗うとき、歯を磨くとき、水をだしっぱなしにしていますか？また、お風呂の残り湯は洗濯や植木の水やり、打ち水などに使えます。

3 ごみを分別する

地域によって違いはありますが、リサイクルできる資源ごみを普通のごみとして捨てていませんか？

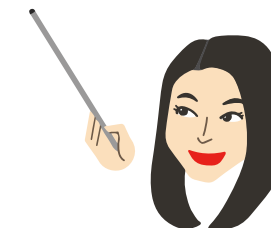


2 パソコンを省エネモードに

昼休み中、使っていないパソコンに通常通り電源が入っているのはもったいないですね。

2 近くへ出かける時は・・・

自動車やバイクを使わず、徒歩や自転車ですでかける。健康的で経済的、しかも地球に優しい。一石二鳥です。



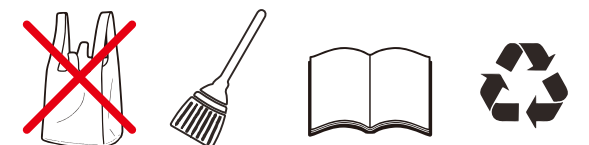
EUでは2030年までに使い捨てのプラスチック包装を無くし、全てを再利用または素材としてリサイクルする動きがでているんです

▶ 掃除をするの時

- ・ボロボロになった衣類やタオルを雑巾にして使う
- ・掃除機を使う回数を減らして、ほうきを使う

▶ 読書が好きな方は・・・

- ・マイブックカバー&しおりを持とう!
本を買った際についてくる紙製のブックカバーやしおりが不要になり、ゴミが減ります。
- ・古本屋さんをフルに活用!
いらなくなった本を売ったり、欲しかった本を安く手に入れられたりできます。新刊なら、図書館の利用もお勧めです。



Yの字作戦

Yの字作戦とは、宗像の釣川から大島、地島を結ぶYの字で、宗像の自然環境を美しくするための新たなプロジェクトです。「TOTO水環境基金」を活用し、Yの字作戦プロジェクトチームを結成し、作戦を遂行しています。実施するのは海岸、河川での清掃活動がメインです。Yの字作戦は自然環境の保全活動を通じて、地域で仲間を作ることに繋がります。



2015年度活動記録

日付	内容・実施場所	回収ごみ量(kg)	参加数(人)	参加者総数 164人 総回収量 1,045kg
5/24	深浜海岸クリーンアップ	320	39	
6/21	釣川クリーンアップ	60	13	
7/26	大島クリーンアップ	雨天中止	—	
8/23	地島クリーンアップ	110	7	
9/12	深浜海岸クリーンアップ	35	76	
10/3	さつき松原クリーンアップ	240	6	
11/14	深浜海岸クリーンアップ×TOTO(株)	雨天中止	—	
1/17	深浜海岸クリーンアップ×TOTO(株)	480	11	
2/28	釣川クリーンアップ	40	12	

2016年度活動記録

日付	内容・実施場所	回収ごみ量(kg)	参加数(人)	参加者総数 144人 総回収量 1,325kg
5/22	さつき松原クリーンアップ	250	11	
6/11	深浜海岸クリーンアップ×TOTO(株)	300	74	
7/31	地島クリーンアップ	65	9	
8/20	大島クリーンアップ	250	31	
9/25	さつき松原クリーンアップ	285	7	
11/19	深浜海岸クリーンアップ×TOTO(株)	雨天中止	—	
1/22	深浜海岸クリーンアップ	125	6	
3/11	小森川クリーンアップ	50	6	

2017年度活動記録

5/5	さつき松原クリーンアップ	175	11	参加者総数 203人 総回収量 2,830kg
6/17	深浜海岸クリーンアップ×TOTO(株)	398	70	
7/2	釣川クリーンアップ	70	5	
8/26	大島クリーンアップ×TOTO(株)	840	30	
9/24	さつき松原クリーンアップ	168	8	
10/14	釣川・さつき松原クリーンアップ	136	5	
11/11	深浜海岸クリーンアップ×TOTO(株)	714	63	
12/9	深浜海岸クリーンアップ	105	4	
3/17	深浜海岸・さつき松原クリーンアップ	224	7	

3年間のYの字作戦は述べ...

参加者総数
511人

総回収量
5,200kg

プロジェクトメンバー



立花 祐平 当NPO法人代表理事、30代
たかがごみ拾い、されどごみ拾い。地域の魅力や課題、いろいろな気づきを得ることができます。力を合わせて日本の環境を変えていきましょう。



品川 恭徳 予備校事務職員、50代
清掃活動を通じて、環境について考える機会になります。子どもたちと楽しみながら活動しています！



松田 愛子 当NPO法人職員、30代
清掃活動にイベント要素を組み込めば楽しみながら「環境保全」「仲間づくり」「地域PR」と1石3鳥！大好きな宗像の海を守るという任務を遂行するため、プロジェクトのサブリーダーとして君臨。



陣内 貴明 グラフィックデザイナー、30代
一人では孤独な清掃活動も、仲間と一緒にだと楽しく、同じ目的をもって行えます！



日下部 裕之 公務員、30代
世界遺産のある宗像ですが、川や海を見てみると案外ゴミで汚れています。きれいな環境を守り、次の世代に引き継いでいきましょう！



池浦 郁子 役場支援員、30代
清掃後の海を見ると「今日も世界の平和を守った」そんな清々しい気分になります！



松尾 絵美 公務員、30代
この清掃活動を通してさまざまな出会いや発見があり、楽しみながら活動しています。



池浦 遥 中学2年生、10代
将来の夢は海上保安官です！海の平和を守ります！



吉丸 耕一 公務員、30代
気楽な活動ですが、活動後はいつも自分の気持ちもキレイになった気がします。



池浦 茜 小学5年生、10代
清掃後はいつも温泉に行きます。いつもより温泉が気持ちいいです！

今期からYの字作戦プロジェクトメンバーに加わった2人に聞きました！

- Q1.清掃活動に参加したきっかけは？
- Q2.実際に参加してみてどうだった？
- Q3.なぜYの字作戦メンバーになろうと？
- Q4.Yの字作戦を通して感じたこと、発見など

Q1

宗像に越してきて、とあるイベントに親子で参加し、その主催団体が近所の釣川の清掃をされると知って家族で参加したのがはじまりでした。

Q2

比較的綺麗な街である宗像も、少し目線を低く、細かくしていくとゴミが沢山散乱していると気づき、草の根的な活動の重要性を認識しました。

Q3

宗像が好きになり、宗像を綺麗にする活動に興味を持ちました。そして一人では限界があることも、気の合う仲間や、企業の皆さまと楽しみながら活動することができるのではないかと、また子供達も参加できるので、環境について考える良い機会であると思いYの字作戦メンバーに参加しました。

Q4

この活動をきっかけに、独りでもゴミを拾いながらのランニングなど、自主的に環境に目を向ける良い機会になっています。また、多くの方々と知り合えて人の輪が広がることも自分にとっては大きな財産となっています。



池浦 郁子さん

岡垣町内の小学校で発達しょう害の子供達と毎日笑いあって過ごしている。ダイビングとSUPが好きで、子供達に海の楽しさと厳しさを教えたいと思い、ジュニアライフセービングクラブでスタッフとして携わる。海に行きすぎて、車のエアコン部に砂が詰まり壊れているのが悩みの種。

Q1

子供が所属しているジュニアライフセービングクラブと改革プロジェクトのコラボイベントがきっかけです。

Q2

クラブの清掃とは違い、ゴミについて深く突き詰めて考える事が出来ました。

Q3

子供達のための希望です。まんまと引きずり込まれました(笑)

Q4

色々な年、職種の方と触れ合え、1つの事に向かって取り組むことがとても楽しいし、刺激になります。

子供達も考えの幅が広がり、学ぶことが多いと感じています。



品川 恭徳さん

普段は役所の職員や学校の先生の採用試験の受験指導歴25年。3年前に長崎から宗像に引っ越してから、地域の活動に目覚め、Yの字作戦メンバーの傍ら、ランニングしながら防犯活動を行う「パトラン」や、自治会活動でカレー販売の宗像フェスにもボランティアとして参加。40年以上続くライフワークである「映画鑑賞」と、駆け出しビブリアオパトラとして「読書」をこよなく愛する、リア充真ただ中の弱冠50歳。

TOTO株式会社は水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献する企業を目指しています。未来に向けて、大切な水資源を有効に活用して社会が持続的に発展していくためには、節水技術の追求という果たすべき役割とともに、NPOをはじめとする市民活動の果たす役割も欠かすことができないと、2005年度に「TOTO水環境基金」

を設立し、市民による環境に関する取り組みを支援してくださっています。

助成金による経済的支援だけでなく、TOTOグループ社員皆さまの活動参加や情報交換などを通して、年々活動の輪が広がっています。私たちの遂行するYの字作戦プロジェクトも「TOTO水環境基金」の助成を受け活動しています。



TOTO参加者様の声



小倉第一工場 工場長
中山 英顕さん

深浜海岸で『Yの字作戦』の海岸清掃活動に参加いたしました。みんなで汗を流しているうちに、海岸がきれいになっていく様子は非常に充実感がありました。また、清掃活動の中にエンターテイメントの要素も盛り込んでいただき楽しい活動でした。この活動では、ごみを拾うことだけでなく、参加することによって宗像の自然環境が置かれている現状を知ることによって環境保全の意識を高められたと思います。世界遺産地区の海岸を素足で歩けるように、微力ではありますが、これからも活動を続けていきたいと思っています。



事務管理グループ
幡手 伸太郎さん

深浜海岸での海岸清掃活動に参加いたしました。清掃活動でゴミを拾い集め海岸が美しくなっていく様子を見て、自分たちが環境改善に役立っていることを実感できて充実感がありました。また、活動を通じて日本の海岸の抱える環境問題も理解できるようになりました。「海岸を美しくする」だけではなく、「私たちが日常生活で廃棄しているゴミが適正に処理されているのか?」といったことまで関心を持つようになりました。活動後に改革プロジェクトさんが準備して下さる郷土料理も大変おいしく、毎回楽しみにしています。これからも活動に参加していきたいと思っています。



Yの字作戦の活動報告を行ってきました！

2018年3月9日に開催されたTOTO水環境基金助成団体交流会で代表の立花がこれまでの3年間の取り組みの活動事例の紹介を行いました。交流会には今年度より助成金が決定した団体が全国より集まりました。